



いわて・みやぎ・ふくしま No. 2 便り

2019年
5月31日発行

日本生協連
組合員活動部

5月の「いわて・みやぎ・ふくしま便り」をお送りします。

東日本大震災から8年が経ちました。これからも復興に向けて歩いていく被災地の皆さまに寄り添って、全国から支援活動を行っていきましょう。



災害公営住宅で料理サロンを開催しています！



震災後、仮設住宅の「ふれあいサロン」での「食事づくりをするのが億劫になった」「食べる気がしない」「体調がすぐれない」などの声をうけて、食を大切にする生協として、簡単にできる「三行レシピ」の配布や「ふれあいサロン」での食事会などを行ってきました。

仮設住宅の集約に伴い「ふれあいサロン」は次々と終了し、7月には3会場だけとなります。

そこで、食の支援として災害公営住宅や地域公民館を会場に「生協料理サロン」の開催をすすめています。宮古、釜石、けせんの地域で月に1回ずつ、社会福祉協議会などの調整のもと、いろいろな会場で開催しています。

メニューは味の素ファンデーション様の協力もあり、各地域共通のものです。5月は「春キャベツと豚肉のゴマみそだれ」「春野菜のだし酢あえ」「新じゃがで作る和風ポテトサラダ」の3点でした。

釜石市の大町復興住宅会場では、ラグビーチームの「釜石シーウェイブス」の選手3人も一緒に参加し、料理前にストレッチ体操も行いました。「ふれあいサロン」より男性の参加が多く、この日は8名のうち5名が男性の参加でした。支援団体の会合では「なかなか外に出せない男性が多い」という話になりますが、「料理サロン」は男性も参加しやすいようです。

宮古市の近内災害公営住宅会場は、昔話をしながら、みんなで協力して料理をすすめました。どの会場もはじめる前に、栄養バランスの紙芝居を聞いて、それから調理に入ります。調理から食事まで2時間ちょっとの間ですが、お話ししながら食事もとれるので、楽しみにしている方も多い取り組みです。



(料理サロンでの活動の様子)



(美味しそうに出来上がったお料理)



(参加者の皆さんで出来上がったお料理を囲む様子)



防災集団移転団地で初めてのふれあい喫茶を開催 ～石巻市～

石巻市が整備した防災集団移転団地で最後の完成となった「二子団地」は、みやぎ生協が昨年 9 月までふれあい喫茶を開催していた三反走仮設住宅にお住まいだった方が多く転居された団地です。この二子団地に作られた集会所で、5 月 14 日、初めてのふれあい喫茶を開催し 25 名が参加しました。折り紙で箱作りをしたり、近隣の介護施設の方の指導で簡単な体操を行ったりして、楽しい時間を過ごしました。

参加者からは「三反走仮設住宅の方から話を聞いていたので、とても楽しみにしていた」「誰でも来ていいという集まりはあまり無かったのでうれしい」との声や、ボランティアの方からも「三反走のみなさんに久しぶりにお会いでき、お元気そうでよかった」「参加者が多くてびっくり!」「集う場があると、生き生きと生活できるのかな。続けていけたら良いと思う」などの声が寄せられました。今後も 2 ヶ月に 1 回、継続して開催していく予定です。



(二子団地での活動の様子)



地域の居場所「ふれあいカフェ」が広がっています!



亘理町のみやぎ生協亘理店集会室や、仙台市のみやぎ生協太子堂店で開催していた被災者支援のふれあい喫茶が、地域の居場所「ふれあいカフェ」になりました。

亘理店集会室でのふれあい喫茶は、亘理町内の仮設住宅が閉鎖となった 2016 年 6 月、仮設住宅でのふれあい喫茶に参加していた方々の要望を受けてスタートし、徐々に参加者のみなさんが主体となって企画を考えるようになっていきました。お友だちに声をかけたり、店内のチラシで参加者も増え、さらに地域みんなの居場所にしていこうと、2019 年 4 月から「ふれあいカフェ」とし

て自分たちで運営していくことにしました。

太子堂店集会室での活動は、仙台市内で一番大きい仮設住宅だった「あすと長町仮設住宅」で活動したいと集まったボランティアの方々が中心となって運営しています。太子堂店の近くに災害公営住宅ができたことから、仮設住宅、災害公営住宅、ご近所の方など誰でも参加できるようにとスタートし、2019年5月からはふれあいカフェとして自主運営になりました。

被災者支援として始めたふれあい喫茶は、地域みんなの居場所づくりの活動へ発展しています。



(巨理店集会室での活動の様子)



(太子堂店集会室での活動の様子)



沖縄からひと足早い春の便りが届きました！



沖縄の新茶は、4月に日本一早い一番茶の収穫が行われ、毎年福島へ送って下さっております。5月16日、県営復興公営住宅の北沢又団地大和田集会所（福島市）にて、毎月第3木曜日に定期開催しているお茶会で、新茶をいただきました。今回は、新茶に合わせて公営住宅にお住いのみなさんとよもぎ団子作りも行いました。みんなで捏ねて作った団子と沖縄の新茶は、とっても相性が良く、大変美味しくいただきました。参加者の方からは「一番早い新茶は一段と美味しいね！」と、憩いのひとときを過ごしました。



(一番茶の香りを楽しむ様子)



(よもぎ団子を作っている様子)



富岡町「夜の森さくらプロジェクト」～富山県生協～



5月21日に立山連峰を望む富山県生協の本部敷地内に、富岡町夜ノ森の桜の直系子孫の苗木を植樹しました。富山県生協の松浦理事長、寺岡専務理事、東日本大震災支援実行委員長の吉田理事初め役員、沢山の委員さんに同席頂きました。当日は、NHK 富山放送局、北日本放送協会初め5社のマスコミの取材もあり、夜の森の桜の植樹の関心の高さが伺えました。

植樹後には、富山県生協の役員、支援実行委員の方々との交流会が行われました。この間の富山県生協の福島支援の報告がなされた後に、コープふくしまより2018年度の震災関連の取り組み、2019年度4月度の支援活動状況を日野組合員活動運営員が報告しました。参加された方々からは、福島の現状、今後の支援について具体的な質問などもあり、富山県生協様の福島への思いを更に強く感じる事が出来ました。



(桜をイメージしたお揃いのティシャツでプロジェクトに参加されたみなさんと)

写真提供 富山県生協より



こども保養プロジェクト (コヨット!) 活動報告

～シルク・ドゥ・ソレイユ (キュリオス) 仙台公演～



(公演用に設営された仮設テント)

2年に1回開催されるシルク・ドゥ・ソレイユを今年も福島交通様のご厚意に開催することになりました。

今回は、福島駅コースと郡山コースの2コースで実施いたしました。

開催日 2019/5/5 (日) 天候は晴れ

行き先 宮城県仙台市 仙台ビッグトップ (あすと長町)

参加者 福島より13家族 (大人18名/子ども16名)

郡山より12家族 (大人16名/子ども18名)

改元に伴う大型連休も残すところあと2日の「子どもの日」、福島交通観光では、福島県内各地から15台のバスで送迎公演を企画し、そのうち福島と郡山各1台をコヨット！企画にあてていただきました。キャンセルもなく予定通り郡山駅・福島駅と出発しました。

1.キュリオス公演（11：00 開場、12：00～14：40、休憩30分）

どんなテーマなのか予備知識もなく鑑賞しましたが、シルク・ドゥ・ソレイユの演技は相変わらずどれも素晴らしく、時間の経過を忘れてしまうほどでした。今回は楽器の生演奏や生歌もあり、今まで見た公演とは少し違った印象を持ちました。指先で人の動きを表現する細かな演技を見せる演出、ヨーヨーなど、体全体を使った演技ばかりでない繊細さが表現されていました。面白かったです。郡山チームの場所は、ステージ正面だけあって迫力を肌で感じられました。

2.帰路

東京方面へのリターンラッシュにも遭わず予定時間を30分ほど早めて福島駅西口へ到着しました。



（時魅力的な公演の様子）



（キャラクターの1人 ザ・キュリオス）

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

百瀬

